

平成 13年度 決算を認定

賛成討論

今日の経済状況において、財政面は、地方交付税や市税の減少、競艇事業収益の落ち込みがあり、財政比率では、公債費比率は改善されたものの、経常収支比率や財政力指数が厳しい中、一般会計の実質収支が10億円余りの黒字となった。なお、施策面では、北関東産官学研究会、シルバーサロン、ファミリーサポートセンター、中通り大橋線右岸側の着工、し尿処理場、IT講習会など実施し、元気、安心、心豊かな桐生を目指し、諸施策を行っていることは評価できる。よって賛成である。

答弁 平成十三年度の財政力指数は、五五一点となり、前年度と比較して、二ポイント低下した。また、現状の財政状況は、歳入で市税や競艇事業収入が減少し、地方交付税も減額されるなど厳しいものであり、歳出も経常経費の増加など、今後厳

平成十三年年度の財政状況は

平成13年度桐生市歳入歳出決算及び桐生市水道事業会計決算を、それぞれ賛成多数で認定しました。
同決算の認定にあたっては、監査委員による監査報告の後、各会派の代表(議員5人)が総括質疑を行うとともに、決算特別委員会(委員12人で構成)を設置し、2日間にわたり、慎重に審査を行いました。
総括質疑における、主な質疑に対する市当局の答弁は次のとおりです。

答弁 記念行事は、市民とともに祝い、今後のまちづくりへの夢と活力を与え

市制施行八十周年・水道創設七十周年記念行事の成果は

しい状況が続くと思われる。このような状況の改善に向け、市税収入の確保のため、産業基盤の整備や収納率の向上などに努めるとともに、経常経費の削減など引き続き努力したい。

反対討論

低所得者に対する介護保険料の負担軽減の導入、就学前児童の医療費無料化、敬老金の継続等社会的弱者への施策などについては評価できるが、消費税の減税、医療改悪の阻止、30人以下学級実現と教職員の増員、景気対策などについて、桐生市独自で対政府要求を行う姿勢が見られない。また、中小企業振興条例をもっと有効にするための、実態把握を行っていない。公営住宅の待機者が多い状況や、市税を払えない市民が急増している状況を改善する施策が不足している。よって反対である。

答弁 シルバーサロン事業の昨年度の実績は、四十三地区で開催され、活動支援としての説明会等が二百八十一回行われ、参加者は千五十三人であった。地域見守り活動は二千四百十二回となっている。また、生きがいデイサービス事業は、

シルバーサロン・生きがいデイサービス事業は

ることができるような行事を企画した。主な行事としては、「記念式典」や「NHKのど自慢」などがあり、総行事数六十六行事行った。主催行事の費用は四千五百万円だった。また、市民自らの企画した市民手作りの記念行事も数多く行われ、市民との協同を考える上で、ひとつの形ができたと考えている。

答弁 国道百二十二号交差点から、郡境道路交差点までの八百七十メートルの区間について、平成十四年度末の供用開始に向けて、鋭意努力している。なお、阿左美沼脇の笠懸町道と暫定的に接続できるように、笠懸町と共同で交差点改良事業に着手した。

桐生大橋線の進捗状況は

家に閉じこもり傾向にある高齢者等が、気軽に利用できる民家に集い交流し、思い思いの一日を過ごすことで、健康で豊かな生活が送れるよう支援するための事業で、くつろぎの家に委託し、事業を始めた。昨年度の実績は、開所日数は二百四十六日、利用延べ人数は三千三百七十六人であった。

結果

不採択 (多数が不採択に賛成)

健康保険本人三割負担および高齢者医療の対象年齢引き下げの中止を求め

この定例会では、請願六件の審査を行いました。その中で、次の一件が不採択となり、そのほかの五件は閉会中の継続審査となりました。

請願の審査結果

答弁 国民文化祭は、昨年十一月三日から十一日までの九日間、県内各地で行われた。桐生市でも「ファッションと未来」をテーマにシンポジウムとファッションショーが行われ、桐生から新世紀の幕開けにふさわしい情報発信ができたことを確信している。

国民文化祭ぐんま 2001の開催結果は